(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2007-11202
(P2007-11202A)
(43)公開日　平成19年1月18日(2007.1.18)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
G09F 1/08	(2006.01)	G09F 1/08	Z	

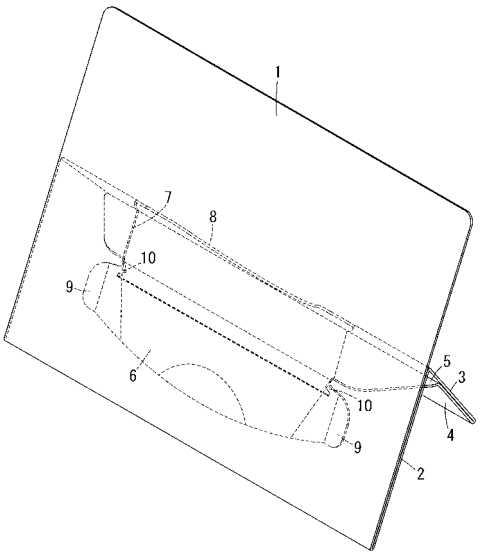
審査請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 5 頁）

(21)出願番号　特願2005-194895 (P2005-194895)
(22)出願日　平成17年7月4日 (2005.7.4)

(71)出願人　000115980
レンゴー株式会社
大阪府大阪市福島区大開４丁目１番１８６号
(74)代理人　100074206
弁理士　鎌田　文二
(74)代理人　100087538
弁理士　鳥居　和久
(74)代理人　100112575
弁理士　田川　孝由
(74)代理人　100084858
弁理士　東尾　正博
(72)発明者　長谷川　成美
東京都葛飾区小菅４丁目２番１５号　レンゴー株式会社葛飾工場内

(54)【発明の名称】掲示スタンド

(57)【要約】
【課題】簡単に組み立てることができる掲示スタンドを提供する。
【解決手段】前面板１の下端に後当板２、支持板３、折返板４、中支板５及び差込板６を折目を介して順次連設し、後当板２の上部に差込口７を設け、前面板１の裏側に後当板２を折り重ねて貼り合わせると共に、支持板３の表側に折返板４を折り重ね、差込板６を差込口７に差し込み、前面板１から支持板３を後方へ起こすと、差込板６が前面板１と後当板２との間を下方へスライドして、中支板５が支持板３から前面板１へ向かって折れ曲がり、前面板１に対する支持板３の揺動が規制されて、前面板１が支持板３に凭れた状態で支持されるようにする。
【選択図】図５



【特許請求の範囲】
【請求項１】
前面板１の下端に後当板２、支持板３、折返板４、中支板５及び差込板６を折目を介して順次連設し、後当板２の上部に差込口７を設け、前面板１の裏側に後当板２を折り重ねて貼り合わせると共に、支持板３の表側に折返板４を折り重ね、差込板６を差込口７に差し込み、前面板１から支持板３を後方へ起こすと、差込板６が前面板１と後当板２との間を下方へスライドして、中支板５が支持板３から前面板１へ向かって折れ曲がり、前面板１に対する支持板３の揺動が規制されて、前面板１が支持板３に凭れた状態で支持されるようにした掲示スタンド。
【請求項２】
請求項１に記載の掲示スタンドにおいて、支持板３の上部に、後当板２の差込口７に連通する手入用の開口部８を設け、この開口部８を介して中支板５を押し、差込板６を差込口７に押し込めるようにしたことを特徴とする掲示スタンド。
【請求項３】
請求項１又は２に記載の掲示スタンドにおいて、差込板６の両側に抜止片９を突設し、この抜止片９が差込口７の両側方で後当板２に係合して、差込板６が差込口７から抜け止めされるようにしたことを特徴とする掲示スタンド。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、板紙等のシート材から成り、商店の売場におけるＰＯＰ広告や、卓上カレンダー、写真等の支持に使用される掲示スタンドに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、写真の支持に使用される掲示スタンドとして、図６に示すように、背板５１を上方から下方へ切り起こして支持板５２を形成すると共に、その下方で背板５１を切り起こして固定片５３を形成し、固定片５３の先端部を支持板５２の係止穴５４に差し込んで、支持板５２を所定角度に固定するものが使用されている（下記特許文献１参照）。
【０００３】
【特許文献１】登録実用新案第３０１０８４４号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、上記のような掲示スタンドでは、組み立てに際し、支持板５２及び固定片５３の反発を抑えつつ、固定片５３の先端部を係止穴５４に差し込んで係合させなければならず、作業に手間取ることがあった。
【０００５】
そこで、この発明は、簡単に組み立てることができる掲示スタンドを提供しようとするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記課題を解決するため、この発明に係る掲示スタンドは、前面板の下端に後当板、支持板、折返板、中支板及び差込板を折目を介して順次連設し、後当板の上部に差込口を設け、前面板の裏側に後当板を折り重ねて貼り合わせると共に、支持板の表側に折返板を折り重ね、差込板を差込口に差し込み、前面板から支持板を後方へ起こすと、差込板が前面板と後当板との間を下方へスライドして、中支板が支持板から前面板へ向かって折れ曲がり、前面板に対する支持板の揺動が規制されて、前面板が支持板に凭れた状態で支持されるようにしたのである。
【０００７】
また、前記掲示スタンドにおいて、支持板の上部に、後当板の差込口に連通する手入用

の開口部を設け、この開口部を介して中支板を押し、差込板を差込口に押し込めるようにしたのである。

【０００８】

さらに、差込板の両側に抜止片を突設し、この抜止片が差込口の両側方で後当板に係合して、差込板が差込口から抜け止めされるようにしたのである。

【発明の効果】

【０００９】

このような掲示スタンドでは、前面板から支持板を起こすだけで、前面板に対する支持板の揺動が中支板で規制されて、前面板を支持板に凭れさせることができるので、他の固定片等を切り起こして支持板に係合させる必要がなく、組立作業に手間取ることがない。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下、この発明の実施形態を添付図面に基づいて説明する。

【００１１】

この掲示スタンドの板紙製ブランクでは、図１に示すように、前面板１の下端に後当板２、支持板３、折返板４、中支板５及び差込板６が折目を介して順次連設され、後当板２は前面板１よりも短く、折返板４は支持板３よりも短くなっている。支持板３、折返板４及び差込板６の両側縁は斜めに切断され、差込板６の先端縁は膨出弧状に湾曲している。

【００１２】

後当板２には、支持板３との境界から中程まで長方形状の差込口７が設けられ、支持板３には、差込口７から切り込まれた弧状縁の開口部８が設けられている。差込板６の両側には抜止片９が突設され、差込板６の最大幅となる両側の抜止片９の先端間の距離は、差込口７の横方向の寸法よりも大きくなっている。

【００１３】

差込板６には、差込口７への差込時に撓みを容易にするため、抜止片９の内側に縦方向及び斜方向の罫線が入れられ、差込板６の先端中央部にも弧状の罫線が入れられている。差込口７の両側縁には、差込板６の基部に係合する係止突起１０が設けられている。

【００１４】

このようなブランクを組み立てるには、まず、図２に示すように、前面板１の裏側に後当板２を折り重ねて差込口７の両側で貼り合わせると共に、支持板３の表側に折返板４を折り重ねて貼り合わせ、差込板６を罫線に沿って撓ませつつ差込口７に差し込んで、抜止片９の復元に伴い差込口７から抜け止めし、扁平な折畳状態としておく。

【００１５】

一方、この掲示スタンドを使用する際には、図３及び図４に示すように、前面板１から支持板３を設置状態における後方へ起こすと、差込板６が前面板１と後当板２との間を下方へスライドして、中支板５が支持板３から前面板１へ向かって折れ曲がる。

【００１６】

そして、開口部８から手を入れて中支板５を押し、差込板６を差込口７に完全に押し込み、差込板６の基部を係止突起１０に係合させると、前面板１に対する支持板３の揺動が規制され、図５に示すように、前面板１が支持板３に凭れた状態で支持される。

【００１７】

上記のような掲示スタンドでは、前面板１から支持板３を起こすだけで、支持板３が前面板１に対して所定の角度に固定され、前面板１を支持板３に凭れさせることができるので、組立作業に手間取ることがない。

【００１８】

このため、前面板１の表面に商品の広告を印刷して、商店の売場におけるＰＯＰ広告として使用する場合、店頭で迅速にディスプレイの設置作業を行うことができる。また、支持板３を前面板１に重ねた扁平折畳状態で、商品の隙間に挟み込んでおくこともできる。

【００１９】

そのほか、前面板１の表面にカレンダーや写真を保持する枠体を取り付けて、卓上カレ

ンダー、写真等の支持架として使用することもできる。

【図面の簡単な説明】

【００２０】

【図１】この発明の実施形態に係る掲示スタンドのブランクを示す図

【図２】同上の扁平折畳状態を示す斜視図

【図３】同上の支持板を起こす過程を示す斜視図

【図４】同上の使用状態を後下方から示す斜視図

【図５】同上の使用状態を前上方から示す斜視図

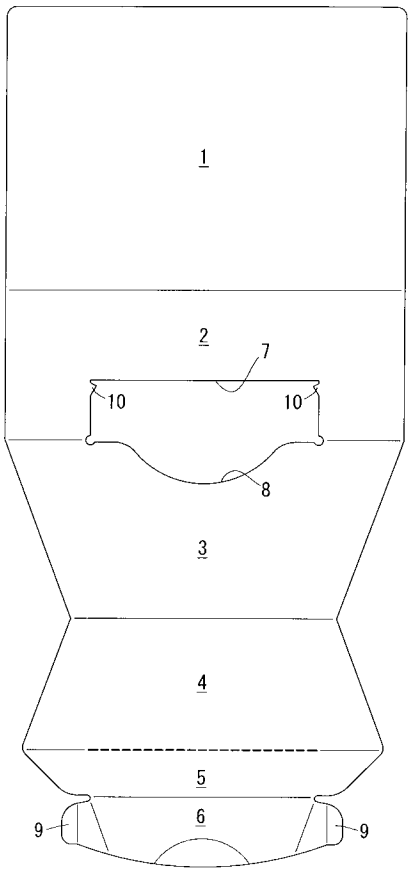
【図６】従来の掲示スタンドを後上方から示す斜視図

【符号の説明】

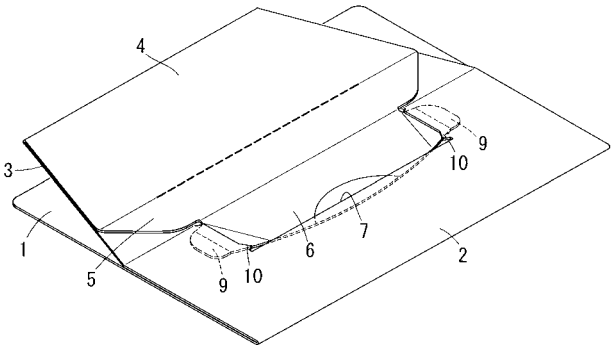
【００２１】

１　前面板
２　後当板
３　支持板
４　折返板
５　中支板
６　差込板
７　差込口
８　開口部
９　抜止片
１０　係止突起

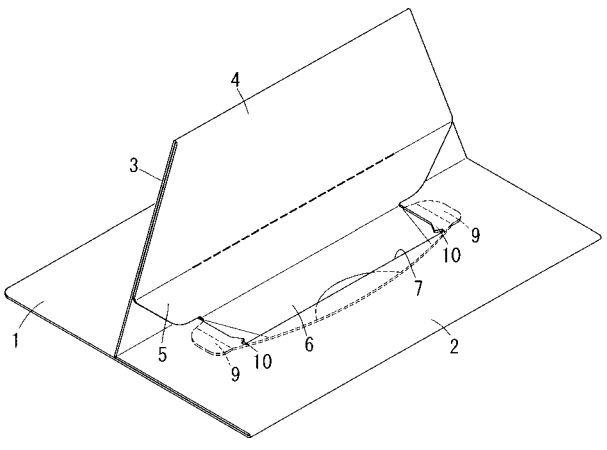
【図１】



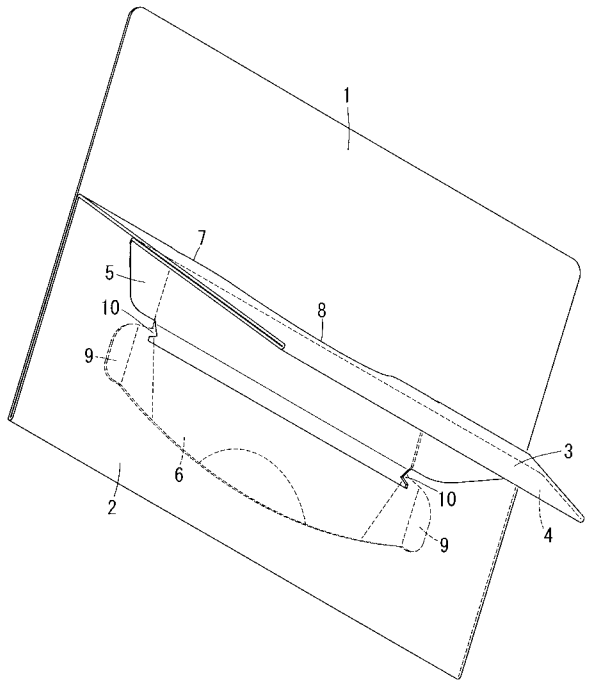
【図２】



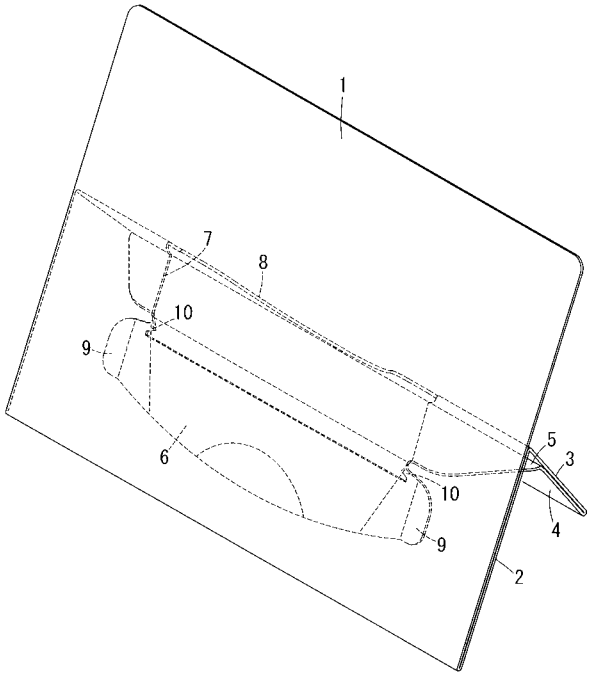
【図３】



【図４】



【図５】



【図６】

